

八戸大使ふるさとセミナー（桂小文治氏）@ 八戸市立白鷗小学校

桂小文治氏 / 公益社団法人落語芸術協会 理事、落語家・真打

開催日時

令和6年7月23日（火曜日）10時25分～11時25分（60分間）

開催校

八戸市立白鷗小学校

演題

「落語の世界」

セミナーの様子

まずは落語について学ぼう



校長先生から紹介

校長先生から桂氏の紹介。

10月に控える学習発表会に向けて、「声の出し方、表情、魅せ方」をたくさん学んでほしいと今回のセミナーの趣旨が伝えられました。

紹介を受けて登場した桂氏。まずは落語の解説から始まりました。

落語とは着物を着た人が高座（こうざ）に座って、右を向いたり左を向いたりして人物や情景を表す中で笑いをとるもの。漫才やコント、ものまねとは違いがあることを分かりやすく説明します。

落語のルールについても説明がありました。右や左を向くといっても勝手に向きを決めているわけではなく、舞台上のルールと場面に合わせて顔を向ける方向を決めているのです。



落語のルールについて身振り手振りで説明

声と言葉を巧みに操って変身！



あらゆる年代・性別を声だけで表現！

落語の基礎を学んだあとは表現方法について。

遠くの人に話しかける場面、いつもみたいに大声を出してしまうと声が枯れてしまいます。落語家は声のトーンと言葉を操って大声を出さずに表現します。

近くの人に話しかけるときは「おい、たっちゃん」

遠くの人に話しかけるときはトーンを上げて「おい、たっちゃんやい」

ずっと遠くの人に話しかけるときは言葉をのばして「おーーーーい、たっちゃんやーい！」

言葉を操って声のトーンを上げるだけで、大きい声を出していないのに遠くに呼び掛けているように聞こえます！

色んな年代・性別の人物についても同じです。声のトーンと言葉の速さ、そして鼻への掛け方を変えて組み合わせると表現することが可能であることを説明します。

ゆっくりとやさしく語るとおじいちゃんおばあちゃんの声、トーンを上げて鼻に掛けると小さな子どもの声、もっとトーンを上げて鼻にぐっと掛けると若い女性の声など・・・まさに変幻自在です。

「1つの言葉でも、やり方によって受け取り方が変わります。」

1つの言葉の表現についても「謝り方」を例に実演します。

誠意を込めて、笑いながら、泣きながら、鼻先を少し上げて・・・少しの声色、表情の違いで言葉の背景がガラッと変わります！

次々と繰り出される多彩で面白おかしい表現に、終始子どもたちからは笑いと感嘆の声が挙がっていました。



桂氏の多彩な表現を楽しそうに聞く児童たち

さっそく小噺を鑑賞！



小噺を披露！

落語の解説を終え着座した桂氏。ここで小噺をいくつか披露。

内容は短いダジャレの小噺から、昔話から作られた小噺、動物の小噺など多種多様！

言葉のもつ微妙な意味の違いを生かして、面白おかしく組み立てられている小噺を、解説を挟みながらテンポよく表現豊かに披露していきます。

児童たちはくすくす笑ったり、斬新な言葉の掛け合わせに「おー」と感心したり。難しい小噺には「あー！」と納得したり。

最後の「オチ」では会場が一気に笑いに包まれました。



桂氏の演技とオチに笑いが溢れます



小噺を繰り広げる桂氏

小道具を使った表現

「お話だけでは表現できないことがあります。そんなときは小道具を使います。」

小噺を披露した後、小道具と音を使った表現方法について説明。

落語で使用する小道具は主に「扇子」と「手ぬぐい」の2つ。扇子は大盃やお銚子、そろばん、刀、槍や箸に、手ぬぐいは本に見立てます。それぞれの表現のポイントを説明しながら披露します。



小道具である扇子と手ぬぐいを紹介



大盃はたっぷり入ったお酒をゆっくり飲み干すように



長い刀の表現には目線の高さが重要！



おそばを食べるときは思いっきりすすって



悲しい本は悲しい表情で



次の本は難しそうです・・・

あまりのリアル感に児童たちは集中モード。ときどき「おー！」と思わず声が漏れていました。

落語を鑑賞しよう！



「転失気（てんしき）」を披露する桂氏

ここで落語を一席、披露いただきました。古典落語の演目の一つ「転失気（てんしき）」です。

たくさんの登場人物を巧みに演じながら、話を展開していきます。子どもたちは本日学んだことと照らし合わせながら、想像を膨らませます。

視線は桂氏にくぎ付け、じっくり落語の世界に入り込んでいるようでした。

最後のオチの展開では、明かされる「転失気（てんしき）」の正体と次々と回収されていく伏線に、会場のあちこちから笑いが起こっていました。

いざ、落語にチャレンジ！



面白い本に笑う児童

ここで、手ぬぐいを使った本の表現に児童がチャレンジ！

沢山の児童が手を挙げて挑戦してくれました。

始めの児童は面白い本を読んでいるようです。お腹をよじって笑う表現力の高さに桂氏も驚きの表情です。



演技の途中で思わず笑いが・・・

次は悲しい本！・・・のはずが思わず笑ってしまいました。

「顔で笑って心で泣いているんだね」と桂氏からコメント。

表現は多様で正解はないということをお伝えします。



迫真の演技です・・・

次の児童も悲しい本に挑戦！

こちらも上手な迫真の演技・・・

他の児童から拍手と笑いが起こりました。

最後に

最後に桂氏への質問コーナーが設けられました。

「他にも小道具はありますか？」

「笑点に出ている桂宮治さんの師匠さんですか？」

など、落語に対する質問から通な質問まで出てきました。児童からの熱意に桂氏も丁寧に回答します。



質問する児童



質問に回答する桂氏

最後は児童からのお礼の挨拶で締めくくりました。

白鷺小学校でのふるさとセミナーは、落語の基礎と表現のテクニックを学び、それがどのように舞台上で活かしているのかを、一流の落語を通じて直接体感することのできた、学びの多い笑い溢れる時間となりました。中でも、表情豊かで前のめりに鑑賞している子どもたちの姿が印象的でした。

桂小文治様、ありがとうございました。



お礼の挨拶で終了しました